

アメリカ・ニューヨーク

セントラルパーク管理委員会

-Central Park Conservancy-



(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐
赤熊 伸彦(香川県派遣)

生命の息吹に心躍る春、柔らかな緑光に包まれる夏、紅葉のハーモニーが美しい秋、そして一面の銀世界に包まれる冬。

四季折々の表情で訪れる者を魅了するセントラルパークは、大都会ニューヨークのオアシスであり、ニューヨーカーにとってかけがえのない財産である。その公園を長きにわたって支えてきたNPOの一つを紹介する。

セントラルパークを支えるNPO

はじめに

アメリカ合衆国は民間非営利団体(NPO)の活動が非常に活発な国である。

これは、この国の歴史の中で、地域における社会問題の解決には地域住民、関係者の自主的な取組みがまず重要であるという理解が浸透している故の結果なのだが、今や地域コミュニティと密接な関係を樹立し、社会事業活動を展開するNPOは、米国社会において必要不可欠な存在となっており、アメリカ経済を支える重要な要素の一つとなっている。

その全米の中でも、とりわけニューヨーク市はNPOが非常に活発な都市として知られ、二〇〇二年現在で、約二万七〇〇〇のNPO団体が登録されており、うち九〇七八がIRS(内国税歳入局)に報告義務を負う公益団体である。

その内訳は、八〇三四団体が実際にプログラムの運営やサービスの提供を行っている運営型公益団体であり、わが国でもNPOとして認知されているのはこの種の団体である。また、一〇四四団体が運営型NPO等のプログラム運営の支援を行う、いわゆる支援型公益団体と呼ばれるもので、アメリカのNPOの財政的支援を担ったり、NPOの

インキューバー(企業育成機関)として政府とNPOとの橋渡し役にも一役買っている。これら九〇七八団体のもたらす経済効果は、二〇〇〇年の統計によると年間支出総額四三〇億ドルにまで上り、これはニューヨーク市の総生産の一・五%に相当する。また、九〇七八団体の年間賃金総額は二二七億ドル以上で、この中には一四億ドルの所得税も含まれる。

このことから、財政難に苦しむ政府機関にとっては、住民サービスの面からも経済効果の面からも、NPOの存在は無視できないものとなっている。

セントラルパークにかかわるNPO セントラルパーク管理委員会 -Central Park Conservancy-

セントラルパークは、一九世紀の半ば、都市化に伴うさまざまな弊害が指摘され始めた時期に、ジャーナリストでアメリカ・ロマン派詩人のウィリアム・カレン・ブライアント氏の提唱により構想され、一八五八年の着工から約二〇年の歳月を経て完成した都市型公園である。マンハッタンの五番街と八番街、五九丁目と一一〇丁目に位置するこの公園は、南北四km、東西八〇〇m、約三四一万km²の広大な敷地面積を有し、公園内には美術館、劇場、テニスコート、ボート乗り場、レストラン、動物



1989年



現在

↑管理委員会によって修復された建物（管理委員会提供）

園など数々の施設を備える。また年間約二〇〇〇万人が訪れており、国内のみならず世界でも最も人気のある公園の一つとなっている。

しかし、今は観光名所としてニューヨークのシンボルと化したこの公園も、一九七〇年代

後半には荒廃が進み、麻薬や暴力、殺人などの犯罪の温床となつてしまった。こうした状況を改善するため、いくつかの市民団体が団体を組織して、セントラルパーク維持管理のためのボランティアや寄附を募る活動を行った。その団体を前身として、セントラルパーク管理委員会（Central Park Conservancy）以下、管理委員会が、一九八〇年に設立された。この団体は、ニューヨーク市公園管理局（City of New York Department of Parks and Recreation）との契約の下にセントラルパークを管理しているNPOである。

管理委員会はその設立以来、ニューヨーク市と共同で主要な景観や歴史的建造物の修復及び維持管理を行い、現在の市民の憩いの場となるセントラルパークをつくり上げてきた。セントラルパークの名所となったグレートローン（The Great Lawn）



↑セントラルパーク管理委員会により維持管理されているグレートローン（The Great Lawn）

ートローンと呼ばれる大芝生公園や自然散歩道七九ストリート通り沿いの維持管理、そしてコロンバスサークル周辺の整備は、このNPOがかつて整備した場所であり、現在も貯水池の周辺などの整備が続けられている。さらに、管理委員会は、公園の歴史、自然についての教育プログラムを訪問者に提供し、公園が市民全体の財産であるという啓発活動も行っている。

財政的には、管理委員会の設立以来、活動資金として、多くの個人、団体及び基金から、約三億ドルの資金調達を行い、今まで公園の修繕に七〇〇〇万ドル、管理費に二六二〇万ドルを投資した。そして、管理委員会はセントラルパークの年間運営予算二〇〇〇万ドルのうち、実に八五%以上を調達し、公園職員の四分の三人の賃金を支払うまでになっている。



↑セントラルパーク管理委員会により設置された公園の歴史の紹介

パブリック・プライベート・パートナーシップ

Public-Private Partnership

この業績から、一九九八年、ニューヨーク市は管理委員会との間で、公園管理に関する運営に関して八年間のパブリック・プライベート・パートナーシップ (Public-Private Partnership) 従来公的部門が担ってきた業務のすべて、ないしは一部を民間セクターが担うことのための両者の取り決め事を締結した。

この中で、管理委員会は主に公園の日常管理を請け負うこととなり、細かく明示された活動範囲(芝生の種取り、落葉木の処理、灌木及び花卉の手入れ、運動場の維持、落書きの修復、モニュメント、歴史的建造物の保存修復、森林の管理、下水処理装置の維持管理、公園内の湖・河川の保護管理)に従って公園を維持管理することとなった。

また、セントラルパークという資産を利用し、環境・公園史の教育プログラム及び若者、家族、コミュニティ、学校向けのレクリエーション・プログラムを提供し、ボランティアに対しても公園整備のプログラムの提供を行っている。さらに、管理委員会はビジターセンターでの年間を通じて数百のプログラムを提供しており、上記の活動に付随する拡張活動についてはその活動を市から認められている。

この契約により、管理委員会は、財政的に市より補助金の交付を受けることが可能

となり、これを維持管理、各種教育プログラム等及び関係費用を含めた歳出に充てることが可能となった。

ただし、契約の中で、ニューヨーク市は、セントラルパークの開発に対して一切の権利を保持し、すべての公園でのイベントに対しては自由裁量権を保持することとなっており、これにより、公園の主要な改善については、開発の各段階でニューヨーク市公園管理局の承認が必要となる。

また、セントラルパークは常に公共の公園でなくてはならないという考えから、市の公園管理局委員会の承認以外にも、パブリック・レビュー(公的審査会)を受けることが義務付けられており、マンハッタン区長、周辺地域自治会長、市長代理、民間企業及び慈善団体を代表とする民間各団体からの代表者ら委員六〇人で構成される受託委員会を設け、公園利用者や周辺地域コミュニティの意見を求めることとなっている。

そして、この計画案を、コミュニティ・ボード (Community Boards)、ランドマーク保存委員会 (the Landmarks Preservation) 及び芸術委員会 (Art Commissions) などにも提出し、地域住民からなる諮問委員会とともにプログラムの企画実施に当たることとされている。

おわりに

セントラルパークを舞台に活動するNPO

には今回紹介した以外にもさまざまなものがある。例えば、世界的に有名なマンハッタンの夏の風物詩「セントラルパーク・サマーステージ」は、NPOであるニューヨーク市公園基金 (City Parks Foundation) とニューヨーク市とのパブリック・プライベート・パートナーシップ事業であり、その年間を通して行われる公園内での催し及び多様なプログラムは、何らかの形でNPOがかかわっている場合が多い。

今回紹介した分野以外にも、ニューヨーク市のNPOは大規模かつダイナミックに活動しており、そのどれもが地域のニーズに応じてコミュニティから生まれた知恵の産物として、広く社会に浸透している。



↑セントラルパーク サマーステージ